

第二展示室・民俗部門に対する来館者の反応

益子清孝・解説員*

はじめに

当館では昭和56年度調査研究活動の一つに「来館者の展示に対する反応調査（一人一事例研究）」を掲げている。本報告は、「民俗資料への関心とその発展」を主題とする調査・研究の一部であり、第二展示室・民俗部門に対する来館者の反応を中心に考察したものである。

調査対象は、昭和56年6月から10月末日までの来館者を任意に選んだ1534名（本館来館者の3.0%）である。年齢・性別・地域別調査対象人員は表1のとおりである。なお、児童の場合は秋田市内の小学生（6年生）222名、生徒の場合は南秋田郡のN高校生（1年生）168名によった。調査方法は、アンケート方式及び聞き取り調査によった。調査項目、聞き取り調査カードは次の通りである。

◇ 調査カード

第二展示室・民俗部門 興味・関心調査カード	
居住地：県内（ ） 県外（ ）	
性別：男・女 年齢：（ ）才	
もっとも興味・関心をもった展示資料名	
興味・関心をもった理由（番号に○印）	
1. おもしろい。	
2. 美しい。	
3. めずらしい。	
4. 初めてみた。	
5. 身近に感じた。	

- | |
|-----------------------|
| 6. なつかしい。 |
| 7. 昔の人たちの知恵に関心した。 |
| 8. 構造に特色がある。 |
| 9. 自分たちの住む地域のものところがう。 |
| 10. その他（ ） |

なお、本報告における秋田県の地域区分は日本地誌研究所の地域区分によった。また、本報告は秋田県内に居住する来館者のみに限定し、県外来館者の反応については後の機会に報告したいものと考えている。

表1-1 年代別、性別調査人員

		総数	男子	女子
10才台	小学生 (6年生)	222	104	118
	高校生 (1年生)	168	58	110
20才代		261	119	142
30才代		225	103	122
40才代		216	99	117
50才代		211	96	115
60才以上		231	106	125
合計		1534	685	849

表1-2 一般来館者の地域別調査人員

地域	人員
I 大館・北秋・鹿角	177
II 能代・山本	87
III 秋田・南秋・男鹿・河辺	442
IV 由利・本荘	115
V 横手・盆地	323
合計	1144

* 秋山真理子、伊藤まゆみ、佐々木博子、児玉保子、太田めぐみ、桜庭はるみ

I 第二展示室・民俗部門展示資料

第二展示室民俗部門の展示は、A、村の神像、B、あかり（灯火）のいろいろ、C、秋田の狩猟習俗（マ

タギと鷹匠）、D、秋田の細工もの、E、秋田の人形（猿倉人形芝居も含む）、F、秋田の衣裳の6項目（テーマ）で構成されている（写真1、図1）。展示の



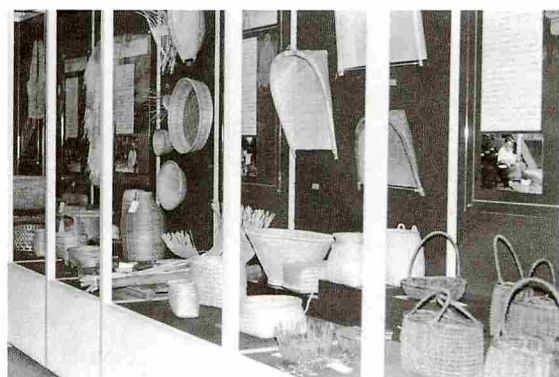
A 村の神像



B 灯火のいろいろ



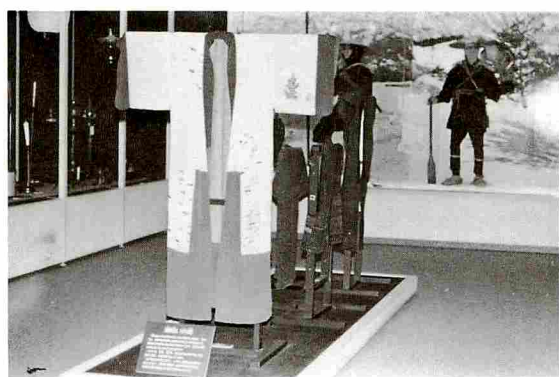
C 秋田の狩猟習俗



D 秋田の細工もの



E 秋田の人形



F 秋田の衣裳

写真1 第二展示室・民俗部門展示資料

第二展示室・民俗部門に対する来館者の反応

表2 第二展示室・民俗部門、地域別展示資料数

地域\項目	A	B	C	D	E	F	計
大館・北秋・鹿角	2	4	18	1	14		39
能代・山本	1			2		2	5
秋田・南秋 男鹿・河辺		23		6	38	2	69
由利・本荘		5		18	7		30
横手盆地	1	1	14	43	56	1	116
計	4	33	32	70	115	5	259

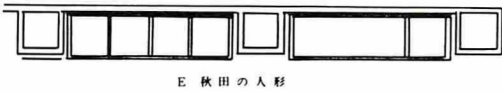
(昭和56年10月末日現在)

- A：村の神像
- B：灯火のいろいろ
- C：秋田の狩猟習俗
- D：秋田の細工もの
- E：秋田の人形
- F：秋田の衣装

ねらいに関しては、木崎和広が秋田県立博物館研究報告(1976)に報告したとおりである。展示資料は総数259点、各テーマ別展示資料とその採集地は表2に示した。なお、展示項目(テーマ)B、灯火のいろいろは昭和53年8月から展示したものである。

II 年代別・男女別関心度

もっとも興味・関心をもった展示項目は図2に示したとおりである。調査対象1534名のうち最も関心度の高い展示項目は“秋田の細工もの”で39.0%を占めている。次いで、秋田の人形(20.5%)、灯火のいろいろ(16.4%)、村の神像(11.0%)、秋田の狩猟習俗(7.4%)、秋田の衣装(5.7%)の順となっている。男子の場合には、秋田の細工もの・灯火のいろいろ・秋田の人形・村の神像などへの関心が高いが、女子の場合には、秋田の人形・秋田の衣装への関心度が相対的に高くなっている。



E 秋田の人形

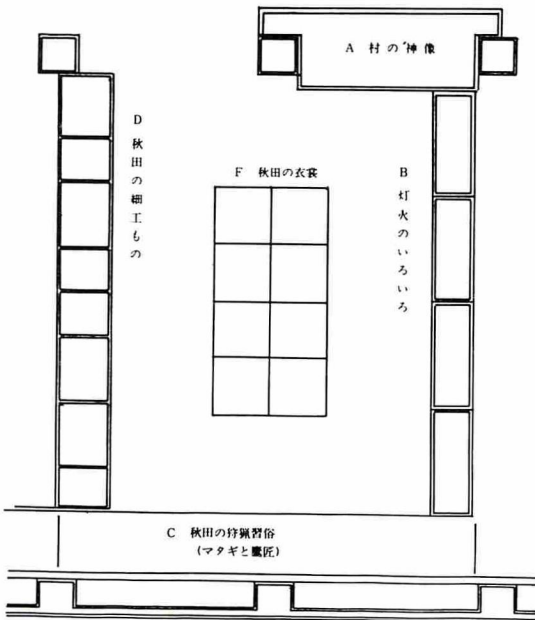


図1 民俗部門・展示項目(テーマ)の配置図

全 体

	A	B	C	D	E	F
全 体	11.0	16.4	7.4	39.0	20.5	5.7
男 子	12.6	18.4	12.7	41.0	14.5	0.9
女 子	9.7	14.7	3.2	37.3	25.4	9.7

年代別

	A	B	C	D	E	F
小学生(六年生)	9.0	24.3	25.2	31.5	9.0	0.9
高校生(一年生)	8.5	17.6	6.0	13.1	53.6	1.2
20才代	2.3	25.3	2.7	26.4	42.9	0.4
30才代	3.6	10.7	5.8	60.4	16.9	2.7
40才代	15.3	13.9	3.7	49.1	5.6	12.5
50才代	18.0	5.7	5.2	43.6	11.4	16.1
60才以上	20.3	16.0	3.9	44.6	8.2	6.9

A：村の神像 B：灯火のいろいろ C：秋田の狩猟習俗
D：秋田の細工もの E：秋田の人形 F：秋田の衣装

図2 年代別関心度

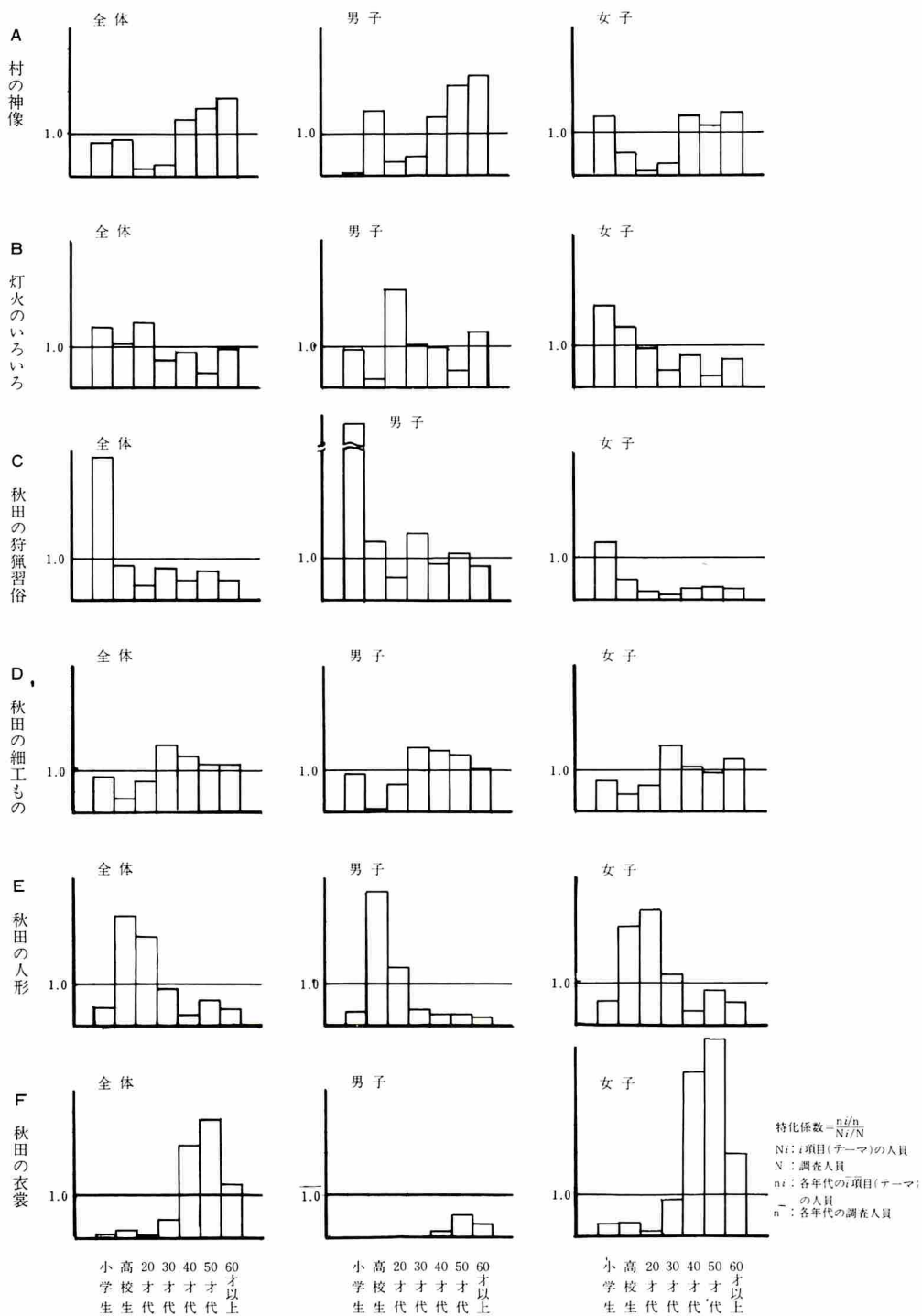


図3 各展示項目(テーマ)の年代別関心度(特化係数)

第二展示室・民俗部門に対する来館者の反応

各項目別の関心度を年代別にみると、村の神像・秋田の衣裳では年齢層が高くなるにつれて関心度が高くなっている。灯火のいろいろ・秋田の狩猟習俗・秋田の人形などは、小学生・高校生・20才代の若年層に関心度が高い。ことに小学生は相対的に秋田の狩猟習俗・灯火のいろいろに対する関心が高い。高校生・20才代では特に秋田の人形に対する関心が高い。秋田の細工ものでは、30才代以上の年代層の関心が高く、40%以上の比率を占めている。

これらの年代別にみた関心度の特化傾向(図3)をみると、小学生は秋田の狩猟習俗、高校生は秋田の人形に特化係数が高くなっている。一般の場合、20代において秋田の人形・灯火のいろいろ、30代が秋田の細工もの、40代が秋田の衣裳・村の神像・秋田の細工もの、50代が秋田の衣裳・村の神像、60才以上では村の神像・秋田の衣裳への関心が特徴的である。それぞれの年代において明瞭な関心の示し方の相違があるが、同時に性別にもその相違がみられる。男女別にそれぞれの関心度を特化係数でみてみると、小学生の場合には男子が秋田の狩猟習俗、女子が村の神像・灯火のいろいろへの関心度が高い。高校生の場合には男子が村の神像・秋田の人形、女子が灯火のいろいろ・秋田の人形への関心が高くなる。一般の場合、20代の男子が灯

火のいろいろ、女子が秋田の人形、30代の男子が秋田の狩猟習俗、女子が秋田の人形、40代の男子が秋田の細工もの、女子が秋田の衣裳、50代・60才以上の男子が村の神像、女子が秋田の衣裳に特徴的に関心度が高い。したがって、年代差、男女差によって興味・関心の示し方にそれぞれの特徴があることが知れる。

III 一般来館者の地域別関心度

一般来館者の調査対象1144人(男523人、女621人)の地域別にみた関心度を特化係数(図4)をもとにみると地域差がある。村の神像は能代・山本地域、灯火のいろいろは能代・山本及び由利・本荘地域、秋田の狩猟習俗は能代・山本、大館・北秋・鹿角などの県北地区及び由利・本荘地域、秋田の細工ものは秋田市及び男鹿・南秋・河辺と横手盆地、秋田の人形は横手盆地及び由利・本荘地域、秋田の衣裳では秋田市、男鹿・南秋・河辺及び由利・本荘地域に卓越している。特に能代・山本地域の村の神像、大館・北秋・鹿角における秋田の狩猟習俗に対する特化係数が高いのが目につく。由利・本荘地域では全県的に関心度の高い秋田の細工ものに対しての関心よりも、灯火や人形・衣裳などへの関心が強い。このような地域差は、身近な地域の展示資料として反応する反面において、来館者の

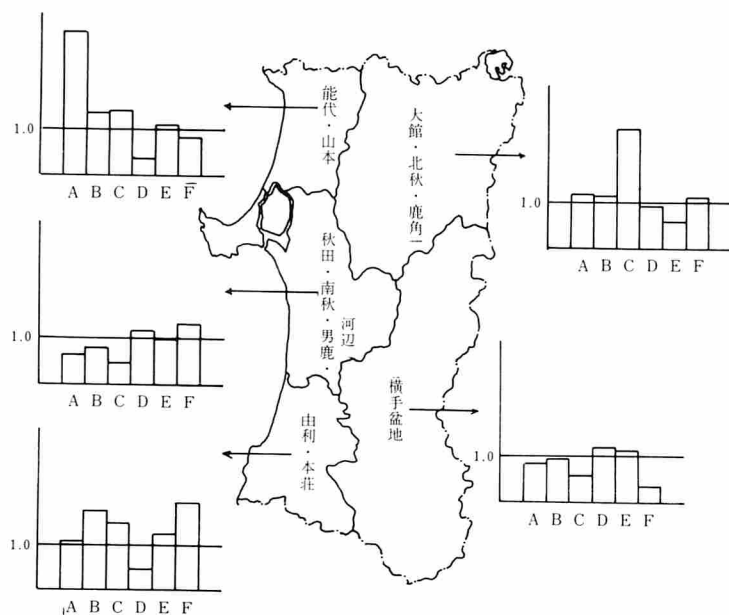


図4 地域別関心度(特化係数)

A: 村の神像, B: 灯火のいろいろ
C: 秋田の狩猟習俗, D: 秋田の細工もの
E: 秋田の人形, F: 秋田の衣裳

$$\text{特化係数} = \frac{n_i/n}{N_i/N}$$

N_i : 項目(テーマ)の人員

N : 調査人員

n_i : 各地域の項目(テーマ)の人員

n : 各地域の調査人員

来館動機・目的、観展姿勢、体験・知識などによっても異なるものと考えられる。

IV 反応要因

興味・関心をもった理由の“おもしろい”“美しい”“めずらしい”と答えたものを感性的要因として、“初めてみた”“身近に感じた”“なつかしい”を体験的要因、“昔の人たちの知恵に感心した”“構造に特色がある”“自分たちの住む地域のものもちがう”を思考的要因として大別して考察してみた。10～20代の年令層の約60%以上は感性的に反応し、30代以上の年令層では50%以上が体験的に観展している。高年令層になるにしたがって感性的な要因が低下し、体験的にみる傾向が顕著である。その漸移する年代が30才前後の年代と考えられる。思考的にとらえる傾向は10～25%程度であって、小学生(25.2%)・60才以上の老令者(15.8%)においてかなり思考的な反応を示している。20代の場合には、感性的に反応する比率も高いが、相対的に思考的反応も高い(図5)。高年令層になるにしたがって体験を通しての能動的な反応を示しているものと考えられる。若年層の場合でも、受動的ではあるが、かなり思考的に反応している場合もある。例えば、秋田市の小学校六年生の場合、A校の76.7%が感性的にとらえている反面、12.3%のものが思考的に反応している。しかるに、B校の場合、前者が41.3%であるのに対して後者が45.7%であった。B校の場合、

かなり能動的に展示資料に反応している。B校の博物館学習の時間は午前9時40分～午後1時半までの約4時間に及ぶ課題学習であった。A校の場合は所要時間1時間30分の歴史の課題学習であった。このことは、博物館学習における学習所要時間にも関連するが、学習計画によって反応の仕方がことなることを示している。また、児童・生徒は学習計画によって能動的な・思考的な対応が可能なることをも示唆している。

大学(短大を含む)及び大学院などの高等教育をうけた20代の関心度とその反応要因をみると、任意に調査した120名の最も関心度の高い項目は灯火のいろいろ(28.3%)であった。次いで、秋田の人形・村の神像(ともに22.5%)、秋田の細工もの(14.2%)、秋田の狩猟習俗(11.7%)、秋田の衣裳(0.8%)の順であった。灯火・細工ものに関しては、女子の関心が高くなっているが、全体的にみて、細工ものに対する関心よりも、灯火や人形・村の神像に対する関心度が高くなっていた。その要因をみると、感性的要因38.3%、体験的要因30.0%、思考的要因31.7%であった。感性的、体験的要因に比して相対的に思考的要因が高率となっているところが特徴的である。

年代別に反応要因をさらに具体的にみる(表3)と感性的要因の“おもしろい”と答えている者が小学生(31.1%)、高校生(20.7%)、一般20代(23.6%)に多い。30才以上の年令層では極めて少ない。同様に“美しさ”などの美的にとらえている年令層は20才代以下の若年層である。30才代において、“めずらしさ”をあげている来館者が23.3%を占めている。

体験的な反応の中で、“はじめてみた”という初体験者が40才以下において10.3%を占め、20代では20.6%とピークとなっている。“身近に感じた”年令層は30代、40代、60才以上に特に多い。“なつかしさ”は高年令層において特に多く、50代の年令層の73.3%が指摘している。体験的に反応を示す場合でも、懐古の傾向が極めて強く、思考性に乏しい。

思考的要因における“昔の人たちの知恵に感心した”として観展している年代は60才以上の高年令層に多い。豊かな体験を通して先人の創造的な生活観が回顧されると同時にその伝承されてきた先人の知恵に関心を寄せている。若年層においても相対的に先人の知恵を理解しようとしている傾向もある。若年層においてもな

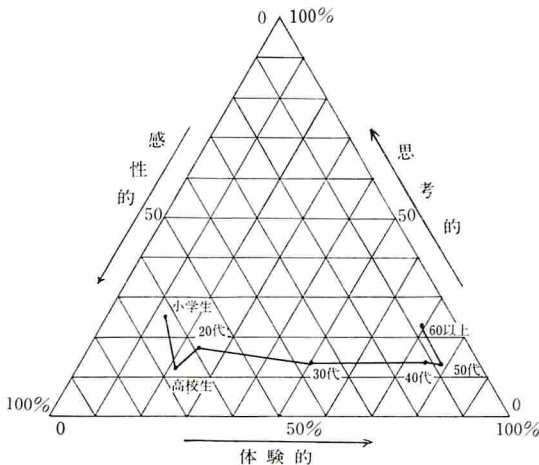


図5 年代別反応要因

第二展示室・民俗部門に対する来館者の反応

表3 地域・年代別反応要因

(%)

地域・年代別			要 因									
			感 性 的			体 験 的			思 考 的			その他
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
児童・生徒	小学生	全 体	31.1	14.3	17.6	10.9	0.9	0	18.5	6.7	0	0
		A 校	38.4	20.5	17.8	9.6	1.4	0	12.3	0	0	0
		B 校	19.6	4.3	17.4	13.0	0	0	28.3	17.4	0	0
	高校生 (N校)		20.7	26.4	20.7	10.0	8.6	2.1	3.6	7.9	0	0
一	全 般		9.8	5.0	11.7	11.1	14.3	36.0	5.5	1.9	2.5	2.2
	地 域 別	大館・北秋・鹿角	7.0	1.4	8.0	8.0	23.0	44.1	6.1	0.9	0.5	0.9
		能代・山本	17.0	3.2	9.6	18.1	18.1	23.4	4.3	1.1	2.1	3.2
		秋田・男鹿・南秋	7.1	7.7	8.9	8.1	13.3	35.2	7.9	3.7	4.8	3.5
		由利・本荘	11.7	7.8	14.8	20.3	7.0	25.0	7.0	1.6	1.6	3.1
		横手盆地	12.9	2.6	17.5	12.3	12.0	39.8	1.4	0.3	0.6	0.6
般	年 代 別	20 才 代	23.6	11.8	23.6	20.6	1.5	1.5	11.8	1.5	1.5	2.9
		30 才 代	6.7	6.7	23.3	13.3	16.7	20.0	1.7	1.7	3.3	6.7
		40 才 代	6.9	1.7	3.5	10.3	20.7	44.8	3.5	3.5	3.5	1.7
		50 才 代	3.3	3.3	3.3	1.7	3.3	73.3	6.7	1.7	1.7	1.7
		60 才 以上	5.3	1.3	2.6	1.3	21.1	47.4	13.2	1.3	1.3	5.3

1：おもしろい、2：美しい、3：めずらしい、4：初めてみた、5：身近に感じた、6：なつかしい、
7：昔の人たちの知恵に感心した、8：構造に特色がある、9：自分たちの住む地域のものとちがう。

お郷土の風土や伝統的な文化に能動的に対応している来館者も少なくない。

V 地域別反応要因（一般来館者の場合）

地域別に反応要因を特化係数（表4）からみるとかなりの地域差が認められる。米代川流域の県北地方では“身近に感じた”などの体験的要因が支配的である。展示資料・展示項目（テーマ）の関心度とその展示資料の採集地が一致するものもあり、身近にうけとめている。能代・山本地域では懐古にとらえている来館者も多いことからかなり体験的に考察している。大館・北秋・鹿角の来館者では、博物館で初めて接した民俗資料も少なくない。秋田や男鹿・南秋・河辺などの中央地区の場合には、極めて能動的な観展傾向がある。特に構造的、地域的な思考的観展傾向が強い。横手盆地、由利・本荘地域はむしろ感性的なとらえ方が多い。しかし、これらの地域差は全体的な傾向であって、来館者の観展目的によって、極めて思考的に対応している来館者も少なくない。例えば、第三展示室のテーマ展などを目的に来館する来館者には極めて学術的

に高度な研究目的をもって観展する人も少なくない。したがって、今回の調査だけによって即断することは不可能である。

最も関心度の高い「秋田の細工もの」についてみると、ワラ細工、つる・樹皮細工、竹細工に対する関心が極めて高い。おもな展示資料では、ワラ細工では、イズメ・ママイツメ・フミダワラ・ワラジなどがあげられる。つる・樹皮細工ではアケビ・ブドウ・サルグルミなどのコダシやマンダゲラなどがあげられる。これらの反応要因をみると感性的・体験的要因よりも思考的要因が支配的である。その特化傾向（表5）に顕著にあらわれている。

大館・北秋・鹿角、秋田市・男鹿・南秋・河辺、由利・本荘では先人の知恵や構造面において、能代・山本、秋田市を中心とした中央地区では地域差を考察する思考的な傾向が顕著である。したがって、展示項目（テーマ）・展示資料によって、極めて思考的に反応している現実を看過することはできない。

概して村の神像では、おもしろさ、なつかしさ、先人の知恵がその反応要因となっている。灯火のいろい

表4 地域別反応要因～特化係数～

地域 要因		I	II	III	IV	V
		1	0.71	1.73	0.73	1.19
感性的	2	0.28	0.64	1.54	1.56	0.52
	3	0.68	0.82	0.76	1.27	1.50
	4	0.72	1.63	0.73	1.88	1.10
体験的	5	1.61	1.27	0.93	0.49	0.84
	6	1.23	0.65	0.98	0.69	1.11
	7	1.11	0.78	1.44	1.27	0.26
思考的	8	0.47	0.58	1.95	0.84	0.16
	9	0.20	0.84	1.92	0.64	0.24
	その他	0.41	1.46	1.59	1.41	0.27

I：大館、北秋、鹿角 II：能代、山本
 III：秋田、南秋田、男鹿、河辺
 IV：由利、本荘 V：横手盆地

ろでは、初めてみた人も多く、そのめずらしさがその反応要因となっている。マタギや鷹匠などの秋田の狩猟習俗に関しては初めて来館してみた例が多い。秋田の人形では、こけしなど多くの所持者がいることからして、極めて身近にうけとめ、美的感覚で接している場合が多い。

おわりに

来館者の民俗資料に対する関心・反応は年代・性別・地域別にも多様である。本県の来館者は、ワラ細工・竹細工・イタヤ細工・つる樹皮細工などの細工ものに対する関心が高く、本県の地理的・歴史的背景を反映している。しかし、若年層では灯火や人形、中年層では細工もの、高年層では村の神像・衣裳などへの関心

表5 「秋田の細工もの」の地域別反応要因～特化係数～

地域 要因		I	II	III	IV	V
		1	0.68	—	1.36	1.90
感性的	2	0.75	—	1.30	2.10	0.60
	3	0.72	1.12	1.06	0.52	1.10
	4	0.55	—	0.81	—	1.68
体験的	5	1.83	1.10	0.75	1.51	0.93
	6	0.68	1.12	0.99	0.86	1.16
	7	1.79	0.94	1.14	1.72	0.37
思考的	8	1.21	—	1.25	1.75	0.50
	9	0.73	2.28	1.60	—	0.30
	その他	1.50	—	0.40	—	1.80

特化係数 = $\frac{n_i / n}{N_i / N}$ N_i : i 要因の人員
 N : 調査人員
 n_i : 各地域の i 要因の人員
 n : 各地域の調査人員

が高く、年代別にもかなりの相違がある。また、性別、地域別にも関心の示し方が異なっている。

反応要因としては、若年層では感性的に、高年令層では体験的にとらえる傾向が顕著である。両者の漸移年代は30才代前後である。思考的な観展傾向は全体的には低位であるが、展示項目（テーマ）や来館目的・学習計画によって、構造的・地域的特色などの能動的反応も少なくない。

本調査の結果の概要を報告したが、さらに継続的に調査し、今後の展示及び学習利用や普及解説業務の工夫と深化の資としたいものと考えている。

本調査にご協力いただいた方々に深く感謝の意を表します。